

令和 4 年 4 月 15 日

(※受付番号)

教 育 長 様

研究コース
グループ研究 A
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)
671480

代表者	校 園 名 :	大阪市立北鶴橋小学校
	校 園 長 名 :	光 井 栄 雄
	電 話 :	06-6741-6706
	事務職員名 :	服 部 朋 美
申請者	校 園 名 :	大阪市立北鶴橋小学校
	職 名 ・ 名 前 :	教 頭 ・ 田 辺 義 朗
	電 話 :	06-6741-6706

令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	継続研究 (2 年目)
2	研究テーマ	個性を輝かせ、Society5.0を生き抜く児童の育成 ～ すべての児童がいきいきと学ぶ学校をめざして ～			
3	研究目的	テーマに合致した目的を端的に記載してください。 ○発達障がいなどの個性を持つ児童の学ぶ力の育成 ○コグトレ等、個の課題を緩和する先駆的学習支援方法について研究を深め、今日的課題である合理的配慮を含めた、個に応じた学習支援のスキルを高める。 ○70年の歴史をもつ国際クラブの実践を活かすとともに、日本の伝統文化の継承も含め、自他のアイデンティティを尊重し、多様性を受け入れるグローバル人材の育成に広げる。 ○外国にルーツを持つ児童のアイデンティティを生かした国際社会を生き抜く児童の育成			
4	研究内容	継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。 Society5.0を生き抜く力として重要視されているのは協働する力である。そのためには、自他のアイデンティティを尊重し、多様性を受け入れながら意欲的に対話を通して、学びを深め合う集団作りが必要である。一方で、適切な個別支援を必要とする児童や外国にルーツを持つ児童など個性をマイナスにとらえ生き生きと活動できていない児童が存在する。一人の力ではなく協働 (Collaborative work) が求められるこれからのSociety5.0を生き抜く児童を育成するためには、こういった児童の個性を受け入れた個別の支援を行い、その個性を輝かせることができる学校づくりが重要となってくる。その実現に向けて、本校には2つのストロングポイントがある。1つは通級教室を受け持つ特別支援教育に長けた教員の存在でありもう1つは70年の歴史を持つ国際クラブの実践実績である。 この2つのストロングポイントを活かし、昨年度は2つのエキスパートグループを作り研究を行った。教職員間のジグソー法的研究を取り入れるなどにより、研修を深めることができ、一定の成果を出すことはできたが、コグトレ実践等の成果を十分に発揮するためには効果検証を行いながら、継続した研究を行うことが必要だと感じた。本年度は「一人一台タブレットを活用した日常的なコグトレ」と「日本の伝統文化の継承の実践」、「リーダー以外のコア教員の育成」に重点を置き、さらなる実践を重ねることで、今日的課題の一つの解決方法として大阪市の教育活動にも生かすことができると考える。 ①コグトレなど特別支援教育における先駆的研究について学びの研究を行い、実践に生かす。 ・専門的な知識を持った教職員が外部研究会等に参加し、校内において伝達研修を行う。 ・伝達研修をオンラインでも行い、学びを大阪市の教育にも生かす。 ②コグトレなど、児童の認知力やソーシャルスキルを高める実践を一人一台タブレットを活用しながら、学校全体で行うことにより、児童の学ぶ意欲の向上を図る。 ・特別支援教育コーディネーターが中心となって、学校全体で実践を行う。 ③70年の歴史を持つ、国際クラブの実践を生かして、多様性を受け入れ、生かし合うことのできるグローバルな人材の育成を行う。 ・国際理解発表会において日本を含め、学校通う児童が持つルーツのある国の文化の多様性を認め合い、生かし合う心の育成を行う。 ④個々の課題に応じた効果的な支援方法についてのスキルを高めることができる。			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>5月 昨年どの実践の成果と課題をもとに本年度の研修計画を立てる。 教員・児童へのアンケート（事前アンケート）作成・実施・分析。 校内研修を行い、国際理解教育コア教員と特別支援教育コア教員を立て、それぞれが中心となってエキスパートグループを作り、研究プログラムのプランを立てる。（Plan）</p> <p>5～7月 研究プログラムに沿って、総合的な学習の時間や朝の学習時間などを使って実践を行う。（Do） 一人一台タブレットを生かした「コグトレオンライン」を使った実践検証（Do）</p> <p>7月 各リーダーをもとに実践の記録を取り、取り組みの振り返りを行う。（Check） 振り返りをもとに研修計画の改善を行う。（ACT）</p> <p>8月 コア教員が外部研修参加し、コーディネートスキルを高める。 コア教員を中心に特別支援教育研修会、国際理解教育研修会を行う。 伝達研修と各エキスパートグループの学びの共有</p> <p>9～12月 研究プログラムに沿って、総合的な学習の時間や朝の学習時間などを使って実践を行う。（Do） 一人一台タブレットを生かした「コグトレオンライン」を使った実践検証（Do） 日本の伝統文化を学ぶ週間（仮称）の実施</p> <p>10月 特別支援教育コア教員が外部研修に参加し、コグトレ実践スキルを高める。</p> <p>11月 国際理解学習発表会を行う</p> <p>12月 各グループコア教員をもとに実践の記録を取り、取り組みの振り返りを行う。（Check） 振り返りをもとに研修計画の改善を行う。（ACT）</p> <p>1月 校内研究会（兼TEAMSを活用したオンライン研究会）を行う。 （職員・参加者アンケート）</p> <p>2月 特別支援教育コア教員が外部事例報告会に参加し、校内伝達を行う。 教員・児童アンケート（事後アンケート）の実施 事前アンケートとの比較分析・結果の考察</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 ○コグトレ等、認知トレーニングなど、課題を抱える児童の学習に効果があるとされている実践について自分の実践にも生かすことができる人材を育てる</p> <p>《検証方法》 ・教職員アンケートの「コグトレについて理解し、実践に生かすことができますか」という質問の事後アンケートにおいて、効果的な回答の割合を昨年度末アンケートより高める。</p> <p>【見込まれる成果2】 ○コグトレ等、認知トレーニングなどを通して、自己肯定感や児童の学習に対する意欲が高まる。</p> <p>《検証方法》 経年調査において標準化得点が7割未満になる児童の割合を昨年度より減少させる。 児童アンケートの「コグトレの学習は楽しかったですか」という設問に対する肯定的な回答の割合が9割を超える。</p> <p>【見込まれる成果3】 ○自他のアイデンティティを大切にしながら、多様性を受け入れ、生かし合おうとするグローバルな児童を育成できる。</p> <p>《検証方法》 ・児童アンケートの「友だちの意見を取り入れながら、考えることができますか」という設問に対する肯定的な回答の割合を昨年度末アンケートより上昇させる。 ・経年調査の質問紙「自分にはいいところがある」という設問に対する肯定的な回答の割合を昨年度より高める。</p>

6	見込まれる成果とその検証方法	【見込まれる成果4】				
		<div> <div> <div></div> </div> <div> <div> <div></div> </div> </div> </div> <div> <div> <div></div> </div> <div> <div> <div></div> </div> </div> </div>				
7	研究成果の共有方法	<div> <div>◆研究発表【必須】</div> <div> <div>報告書提出日（令和5年2月24日）までに必ず行ってください。</div> <div>○研究発表の日程・場所（予定）</div> <table border="1"> <tr> <td>日程</td> <td>令和5年1月27日</td> <td>場所</td> <td>オンライン（TEAMS）</td> </tr> </table> </div> </div> <div> <div>◆代表校園HPでの共有【必須】</div> <div> <div>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</div> <div>実践事例を学校HPのコグトレ実践として公開</div> </div> </div>	日程	令和5年1月27日	場所	オンライン（TEAMS）
日程	令和5年1月27日	場所	オンライン（TEAMS）			
8	代表校園長のコメント	<p>本校には70年の歴史がある国際クラブがあり、指導にあたっている常勤講師も在籍している。また、通級教室もあり特別支援教育に関する知識を豊富に携えている。この2名の専門的な知識は本校のストロングポイントであり、このストロングポイントを活かした研修・研究を行い全教職員に広げ、輩出していくことは大阪市の教育推進のための責務であると考えている。</p> <p>さらに、今回挙げたテーマは、大阪市教育振興基本計画の「基本的な方向性2豊かな心の育成」に掲げられている「インクルーシブ教育の推進」「多文化共生教育の推進」を進めるために重要な研究であり、その研究を進めるだけのバックグラウンドが本校にはそろっていると感ずる。</p> <p>本校の教職員集団それぞれの個性と2人の専門性、先駆的取り組みの取り入れるとともにともに取り組みを進めるコア教員を育成しながら、ジグソー法的研修を展開し、Collaborative Workを行うことで深い研修となり、教職員のスキルの向上につながると考えるとともに、本研修を経験した教職員は、他の集団においても同様にCollaborative workを行い、高め合える人材となり、今後の大阪市の教育活動を支えてくれるようになると考える。</p>				